1.　評価結果概要表

評価確定日　平成20年　7月　6日

【評価実施概要】

事業所番号	2276700172
法人名	有限会社　旬彩亭
事業所名	グループホーム　旬彩
所在地 （電話番号）	静岡県磐田市今之浦1丁目1番地13 0538-33-5105

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町　4番1号
訪問調査日	平成20年5月19日

【情報提供票より】（平成20年4月19日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年9月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	19　人	常勤　8 人，非常勤　11人，常勤換算　11 人

（2）建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート　造り	
	3 階建ての	1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	43,000　円		その他の経費（月額）	光熱費他　11,000 円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　217，500　円）		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1，600　円			

（4）利用者の概要（4月19日現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性　7 名
要介護1		0　名	要介護2	5　名	
要介護3		2　名	要介護4	2　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	84.5 歳	最低	61 歳	最高　92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック　大竹歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人所有の3階建てバリアフリー対応型ワンルームマンションの1階部分を利用した1ユニットのグループホームである。昨年から小規模多機能型居宅介護を開始したことにより、デイサービス、ショートステイ利用者との触れあいは刺激も多く利用者の元気に繋がっている。上階の住民と接する機会も多く、行事には毎回数人が協力参加しており、昼間グループホームの利用者と数時間を過ごす方もいて、また高齢世帯へ食事を届けたり、時にはボランティアで介護を提供したりと昔のとなり組のようなお付き合いが続けられている。あえて行政に依存せず法人代表の理想を追求した「カーサ旬彩」の中にあって「利用者の尊厳を守りつつ地域との交流を深めながら居心地の良い環境を提供する」グループホームとして法人・管理者・職員が協働しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価において取り組みを期待したい項目となった地域密着型としての理念の策定について、小規模多機能型施設の新設もあり地域との交流を深めながら暮らす環境づくりを謳った理念を作り上げている。運営推進会議での具体的な協議については、地域委員の協力もあり、利用者の生活の広がりにつながる話し合いがされている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

管理者は自己評価を職員全員参加で行うことに意義があると認識しており、今回も全員で取り組んでいる。自己評価により気付かされることが多いことから今後は年に2回ぐらいの定期的な自己評価の実施も視野に入れている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

平成18年11月に第1回の運営推進会議が開催されその後2ヶ月毎に定期的に実施している。自治会長、民生委員、福祉委員、市職員、家族をメンバーに、ホームからの報告に終始することなく地域公民館での介護教室開催や利用者の生活に彩をもたらす自治会や老人会行事参加など双方向で運営推進会議が活用されている。地域の方々にホームの存在を周知できたことも運営推進会議の賜物である。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

月の予定や行事報告等を掲載した「旬彩だより」を発行し、健康チェック表と写真を添えて毎月家族の元へ送っている。面会時や電話連絡の折に家族からの意見や苦情を引き出せるよう配慮しており、意見や苦情があった場合には職員で話し合い改善に繋げている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

ホームだけでなく利用者も個々に自治会に加入し地域の一員としての自覚を持って防災訓練や納涼祭に参加している。ホームの前に公園があり、利用者は滑り台やブランコで遊ぶ子供やその家族と関わったり、コンビニの店員の協力を得ながら買い物を楽しんだりしている。公園で遊んでいた方がホームのトイレを拝借したり、散歩途中でお花をいただいたりと地域住民との交流を積み重ねている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念に「利用者の尊厳を守りつつ、地域との交流を深めながら居心地のいい環境を提供する」の一文を謳い、小規模多機能型居宅介護サービス利用者やマンション上階の住民等と交流しながら楽しく暮らすことを支えるサービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、「皆家族で、笑顔が出る環境づくり」をいつも意識して支援している。代表・管理者・職員が同じ方向を向いて理念の実現に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、毎月の老人会行事「手まり会」へは概ね5名の利用者が参加して歌や運動を地域の方と共に楽しんでおり、地域の納涼祭や防火訓練にも参加している。日常的には散歩の際に公園で遊ぶ子供や家族と会話を楽しんでおり、そのような積み重ねによりホームの存在が地域の方々に周知されてきている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価を職員が全員参加で行うことに意義があると認識しており、今回も全員で取り組んでいる。自己評価により気付かされることが多いことから今後は年に2回ぐらいの定期的な自己評価の実施も視野に入れている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は推進委員の協力が大きく、会議の継続により次回に話し合うべき事柄が浮き出てくるため議題に悩むこともなく前向きな意見交換がされている。ホームからの相談や協力要請のみでなく、公民館での介護教室開催等ホームから地域への貢献も果たしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所主催の事業者連絡会議に出席して情報交換をしたり、利用者の生活についての相談等に窓口を訪れることも多く、サービスの向上に繋がるよう共に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真をはずした「旬彩だより」は利用者の状況や月の予定、運営推進会議の報告や連絡事項等読みやすく中身の濃いお便りとなっている。個々の写真や健康チェック表、通院記録を同封して毎月家族の元へ近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用開始の際には苦情の申し立てについて説明しており、家族が面会時にも意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。細かな意見も言っていただいており、説明すべきは説明し、外部との調整が必要なことや内部で改善できる事柄それぞれに手を尽くし反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はなるべく少なくするよう取り組んでいるが、止むを得ず交代する場合には利用者にはあえて伝えることはせず、尋ねられたら説明している。新しい職員がホームについて一日も早く理解できるように、職員同士分からないことは何でも教えあう雰囲気作りをしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ出席できるよう努めており、受講者は内容についてミーティングで報告し全員で共有している。内部研修として看護師職員の協力を得て脱水症や感染症、レクリエーションの意義等基本的な事柄についての勉強会を毎月開催しており記録からは「継続は力なり」を思わせる多彩な勉強の跡が見られた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の主催する事業者連絡会議に出席して市内グループホーム管理者と交流、情報交換しており、他ホームとの合同勉強会や相互の実習受け入れに発展させている。これらの活動は職員の学習の機会となって利用者へのサービスの向上に繋がっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開所時からの利用者が殆どで、新しい利用者はショートステイの利用者であったり、訪問介護の利用者であり、馴染みの関係が構築されているが環境の変化をできるだけ軽減するために生活歴の把握や馴染みの家具・調度品の持込み等によりこれまでの生活が継続できるよう取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との暮らしから、利用者には追いつけないが寄り添っていける喜びや働く楽しさをいただいており、利用者から発せられる「有難う」の言葉の重さをかみ締めている。諺を教えていただいたり、一言でその場を和ませる技にも感服である。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者がどのような思いで暮らしているかを読み取れるようになるのが今後の課題」「気付くことが大切」「個人を大切にしていきたいと思う」ヒアリングで聴くことが出来た職員の言葉である。寝具のそばに服を積んで寝る利用者の習慣や仏壇の位置も家で暮らしていた時と同じに継続されている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	業務日報、夜勤日報、ケース記録、通院記録等細やかな記録は職員で共有し、利用者・家族の意見を含め毎月のミーティング時に検討し、個々に相応しい介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、従来は6ヶ月毎及び変化の見られたときに実施されていた。小規模多機能型サービスの開始と重なり滞りも見られたが、現在はより短いスパンでの細やかな見直しに取り組んでいる。	○	細やかな介護を特徴とするグループホームにおいては3ケ月毎、また変化が見られたときには随時の見直しが望まれている。家族からの意見聴取、カンファレンス、見直しのサイクル表作成等により円滑な介護計画の見直しを願いたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ワンルームマンションの形態であることからプライバシーが保たれており、家族は気軽に宿泊が出来、炊事も対応できる。自室で家族の法要を営む利用者もあり、外泊支援やマンション内の高齢者への配食サービス等多方面の柔軟な支援に取り組んでいる。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望で従来からのかかりつけ医による受診や協力医療機関による受診に対応している。協力医は定期的な往診や土・日曜の相談にも応じてくれる。またホームには看護師資格を有する職員がおり、利用者への医療行為や他の職員への指導等も出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは既に1名の看取りに携わっている。家族から同意書をいただいており、重度化の場合には家族・医師と連携してよく話し合い、職員で方針を共有している。勉強会で看取りの指針やエンゼルケアについて学んでいる。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	調査訪問当日、利用者の誇りを傷つけるような対応は見られなかった。職員は利用者との暮らしの中で尊厳についてそれぞれが探求しており、答えを自ら導き出している為対応にも自然に現れていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして凡その一日の流れは有るが起床・就寝、食事の時間やレクレーションの参加等利用者の希望を優先している。喫煙や晩酌も見守りの中で楽しんでいる。ヒヤリハットの記述に「その方のペースで行くにはどうしたらよいでしょうか？」との職員の質問にミーティングで話し合った記録がある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が交代で一週間ごとに利用者の希望を取り入れて作っている。デイサービス利用者や職員と共に和気藹々とした楽しい雰囲気の食事風景であった。食後のテーブル拭きや食器拭きは出来る利用者が進んで取り組んでいた。利用者の好きな回転寿司等外食を楽しむ機会もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせた入浴支援をしており、毎日入浴している利用者もいる。便失禁の場合は入浴やシャワーで清潔に気持ちよく過ごしていただくよう対応している。また、寒い時季に快眠できるよう全員に湯たんぽのサービスをしており、中には今（初夏）でも続けている利用者もいる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことや出来ることを把握して取り組めるよう支援している。自分で買物に行ける利用者は好きな雑誌を買ってきたり、洗濯ができる利用者は自分で洗っている。庭で園芸を楽しんだりカラオケで自慢ののどを披露している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝、めがね橋公園を散歩することが日課となっている。デイサービス利用者が車椅子を押してくださり子供や近隣の方と挨拶や会話をしたりの楽しい時間である。利用者の希望で生活していた家まで行くこともある。また、1泊の家族旅行も実施され利用者・家族とも多いに喜んでいただけた。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室の鍵はいつも解かれており、調査当日はベランダ側も開放され風が部屋を通り抜けていた。談話室のドアも自由に出入りできる状態であり、利用者が出て行くときは離れてついていくなど見守りに徹している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。マンション上階の住人とは日ごろから交流があり、防災訓練にも参加していただき、万が一の場合には協力していただけるよう取り組んでいる。	○	災害対策は運営推進会議でも話されているが、近隣に対して協力していただけるような関係作りを日頃から築かれることをお願いしたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂食割合は記録しており、水分は麦茶を用意してなるべく沢山摂っていただくよう配慮している。バランスのよい美味しい食事が供されて、治療を受けている利用者に対しては塩分やカロリーの調整、トロミ食等個別に対応している。年に1～2回はカロリー計算をして過不足のない献立の確認をしている。	○	水分摂取について不足することガがないよう配慮されているが、体調変化時の病院受診に備え大まかでも記録を残されるよう望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室は大きなガラス窓からの採光で、利用者はガラス越しに駐車場を眺めたり、そこここに置かれたソファーにもたれて新聞を読んだり談笑している。各部屋への通路には椅子が置かれて居室から出てきた利用者が公園の風景を見ながら喫煙したり、四方山話を楽しめるような工夫も見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンルームマンションの室内は「自分の家」そのままにベッドや長年馴染んだ箪笥や三面鏡等が配置されている。立派な仏壇や座布団も積まれた部屋では毎日お参りしている様子が伺え、法要もここで営まれたとのことであった。人形や家族の写真やお花を飾って利用者が心地良く過ごせる部屋作りがされていた。		